

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	千葉市桜木園（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	R6年 4月 1日		R7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	R6年 4月 1日		～ R7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア、食事や排泄などの身体介護、ポジショニング等、ニーズを把握し、適切な支援を行う。	計画内容について職員間で事前に共有し、ニーズに沿った支援を実施している。	家族の状況に合わせて、臨時的なニーズが出た場合に、柔軟な対応ができる。
2	利用者が家庭や学校、他施設等、普段の生活リズムを維持でき、安心して過ごせるような支援を行う。	不定期利用であることもあり、家族から在宅での生活や学校での様子の聞き取りを丁寧に行い、家族、本人が安心できる関わり方や環境を提供している。	他事業所、相談支援事業所との情報共有をさらに深める。
3	利用者、職員とかかわりを持ちながら活動に参加できる。	ひとりひとりの持てる力を発揮できる内容と、個々の関心に沿った内容設定や、家庭の中では実施できないような体を使った活動や経験の幅を増やしていけるような活動を心がけている。	個々の発達を意識した活動プログラムの見直し支援の方針、目標について職員間で意見を出し合い、共有していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースの確保	定員に対しての室内環境が狭い	活動場所の工夫や、来園する利用者に合わせて配置等変えている。
2	短期入所との併用利用をしている利用幼児の保護者への日常的な情報共有	児童発達支援事業利用児は現在短期入所と併用利用をしているため、直接保護者とお会いできないこともあり、通園利用時の様子を伝える機会が連絡帳や面談以外であまりできていない。	広報誌や、連絡帳または保護者交流会への参加を促し、普段の利用時の様子についてお知らせする機会を設ける必要がある。
3	震災時の防災対策の周知	不定期利用のため、避難訓練の日程と利用日とが合わないと、訓練に参加できない。	防災対策についての保護者への情報周知を図る 今後アプリの利用を開始し、災害時の連絡体制を確立する。